



富田の丘から

校章の由来 (昭和61年制定 作者 板橋新四郎氏)

三枚の「榎(えのき)」の葉は、本校の教育目標の三本柱「知」「徳」「体」を象徴している。また、左右の黒い部分は、はるかに仰ぎ見る磐梯山、安達太良山を象徴し、学力と体力の向上を表しています。

「榎」の由来 富田郷土誌によると、「富田」の地名は、田穀豊穰を願って命名され、地域の人々は農業神として日吉神社を建立し、信仰してきました。その御神木が「榎」です。校章のシンボルとして「榎」の葉を配したのは、富田の地名に由来したものです。

充実した2学期から新年を迎える！

富田中学校の2学期の活動に対し、多くの方から「勢いがある」と話を頂きました。これは保護者の皆様のご理解とご協力があったとのことと、感謝申し上げます。一人一人に目をやると、望ましい人間関係をつくる過程を通し成長していく姿を見ることができました。新たな希望を持ち、決意を新たに新年を迎え、3学期をスタートさせましょう。

今日ここに、多くの行事や学習・生活を通して大きく成長した皆さんと、2学期終業式を迎えることができ、大変うれしく思います。

◆勢いのある富田中学校

始業式では、「中学校生活の基盤となる一人一人の人間関係を大切にして、学校生活を送って下さい」と話しました。この人間関係を大切にして取り組んだのが文化祭である「榎祭」でした。一人一人の関わり方はどうだったでしょうか。学級の合唱を作り上げる過程、部門ごとに苦勞した準備期間、学年の発表の準備、そして「榎祭」当日。一人一人が関わりを持ち、大きな力となり感動の一日を過ごすことができたのではないのでしょうか。また、レスリングの吉田沙保里選手と栄和人監督をお迎えした創立30周年記念式典では、霊長類最強女子の強烈な印象を受けた講演と富田中学校30年の歴史を振り返り、新たな歴史を築いていく決意を新たにしたところです。部活動では、3年生の活躍を受け継いだ新チームや文化的活動において好成績を残し、富田中学校の勢いを大きく示すことができました。

◆一人一人の判断基準「規範意識」を高める

このように富田中学校として高い評価を頂いている中で、一人一人の成長に目を向けたとき、心配することもありました。それは他人の悪口を言ったり、LINEなどを介し悪口を書いたりなど、いじめにつながるような人間関係のトラブルがあるということです。望ましい人間関係をつくるには、一人一人が物事を判断する基準である「規範意識」を高めることが大切なことです。私たちは意識する、しないに関わらず、それぞれの基準で判断をして行動しています。判断する基準を高めることが、全体の質の向上につながります。「高い規範意識を持つ、質の高い集団」をつくっていきましょう。

◆新年を迎える

さて、間もなく新しい年を迎えます。私たちは誰もが再生願望を持っています。来る新しい年には「こんなことができるようになりたい」「こんなことをやってみたい」と、気持ちを高めるものです。大小に関わらず一人一人が夢や希望を持ち新しい年を迎えてください。